

平成15年度第2回愛知県周産期医療協議会  
議 事 要 約

日 時：平成15年11月21日（金） 午後3時から午後5時まで

場 所：名古屋第一赤十字病院 第6会議室

委員

出席者：浅井委員、安藤委員、石川委員、石田（昭）委員、石田（時）委員、一木委員、  
犬塚委員、岡田委員、加納委員、小山委員、柴田委員、鈴木委員、寺澤委員、  
早川委員（代理）、二村委員、松澤委員、森川委員、山崎委員、吉田委員

欠席者：戸苅委員、奈倉委員、森田委員

事務局

出席者：愛知県健康福祉部児童家庭課長、愛知県健康福祉部児童家庭課主幹（母子保健グループ）

名古屋市健康福祉局健康部主幹（医務指導）

名古屋第一赤十字病院第二小児科副部長、名古屋第一赤十字病院第二産婦人科副部長

欠席者：

司会者：名古屋第一赤十字病院第二小児科副部長

議 長：加納会長

1 加納会長あいさつ

2 犬塚技監あいさつ

3 議事

（1）平成15年度愛知県周産期医療情報システム更新について

<周産期医療情報システム 専門相談報告の入力負担軽減案について>

目的の明確化

地域の中で周産期センターの貢献度を把握する。

具体的には

- ・各周産期センターごとに依頼元・依頼先の地域ごとの件数を把握する。
- ・各周産期センターごとに依頼元施設区分、相談内容の件数を把握する。

入力方法の簡易化

入力項目を絞り込み簡易にする。

個別入力

入力項目を絞り込み選択項目のみとする。

### 集計件数入力

各周産期センターで月単位で集計した件数を入力する。

- \* 今までの個別入力方法だと直前に入力したデータが次のデータに繰り返し入力できないので改善して欲しい。
- \* 内容だけでなく、目的に合うかどうかで入力方法を考えるべきでは。
- \* 集計件数入力の場合どういう項目をまとめて入力するのか予め教えて欲しい。
- \* 入力したデータはどこの周産期施設からでも見られるようにならないか。
- \* データの入力が上手くいっていないので、全体の統計がとりにくい。
- \* 超・極・低出生体重児の三項目に分けた方がよいのでは。
- \* 超低出生体重児の動きに意味があるのでは。
- \* 現在のシステムのリースが来年9月で終了するので10月以降に入力方法システムの变更予定です。
- \* 依頼元の具体的な施設名は必要ないのか。
- \* どこの施設にどの位のデータがあるかが重要になります。
- \* 次回までにサンプルを作成し改めて検討をします。
- \* 施設によってデータの入力のバラつきがありますので、統計は極力協力的にお願いします。

### (2) 平成15年度愛知県周産期医療専門相談事業の報告と今後の予定について

<平成15年8月2日(土)開催(海南病院)>

- \* 後藤・太田・立岡法律事務所 弁護士 服部千鶴先生による「周産期医療における医療事故」の講演会を開催しました。
- \* 参加者は約40名でした。

<平成15年8月9日(土)開催(豊橋市民病院)>

- \* 豊橋市民病院 理学療法士 中島猛先生による「新生児期の哺乳・ポジショニング」と特別講演として森耳鼻咽喉科院長 森正博先生による「小児の摂食・嚥下障害」の講演会を開催しました。
- \* 約80名の参加があり、活発なディスカッションが行われました。

<平成15年10月11日(土)開催(小牧市民病院)>

- \* 名古屋市立大学大学院医学研究科 教授 戸苅創先生による「SIDS」の講演会を開催しました。
- \* 約50名の参加がありました。
- \* 助産師の方の参加が多数あり、活発なディスカッションが行われました。

<平成15年11月1日(土)開催(岡崎市民病院)>

- \* 名古屋第一赤十字病院 産婦人科部長 石川薫先生による「妊産婦死亡の現況」の講演会を開催しました。

\* 参加者は約40名でした。

<今後の専門相談事業として>

- \* 平成16年1月17日(土)一宮市民病院
- \* 平成16年1月31日(土)名古屋市立城北病院
- \* 平成16年2月14日(土)公立陶生病院
- \* 平成16年2月21日(土)トヨタ記念病院 を予定しています。

(3) 平成15年度愛知県周産期医療調査・研究事業の中間報告について

<超低出生体重児の地域療育利用に関する実態と問題点に関する調査について>(山崎嘉久)

調査背景

各種の障害に対して、早期療育を含めた生活面での支援が有効であるが、支援を受けるにあたって困難があり、地域機関を上手く利用できているか。

目的

集団との関わりにどの程度問題があるか、地域でどのような療育を受けているのかまた必要としているのか、家族の受容の実態、生活面における実態調査を実施して、早期療育の利用、医療機関と療育機関との連携方法など具体的な対応方法について考察する。

対象

- ・周産期医療協議会の参加施設を退院した超低出生体重児のうち調査に同意が得られた家族。
- ・県内で療育活動を行っている療育施設、医療施設、福祉施設等の職員。

方法

家族へのアンケート調査

- \* 家族の受容の問題等に関する調査。
- \* 利用した療育施設名と主な内容の記名調査。
- \* 市町村の親子教室等の利用具合の調査。

療育機関・医療機関調査

- \* 療育活動の内容の調査。
- \* 医療機関との連携状況の調査。
- \* 現状と問題点の調査。
- \* 地域との連携、家族の受容等の問題点について記名調査。
- \* 依頼先の施設として
  - ・県内の小児科を標榜する医療機関のリハビリ部門。
  - ・県内の医療機関、療育機関、通園施設等で子供の療育を担っている施設。

#### 調査時期

平成15年12月から平成16年2月

#### 個人情報保護と匿名性の遵守

- ・あいち小児保健医療総合センターおよび協力医療機関における倫理委員会等の審査、承認の下で実施する。
- ・アンケート調査は匿名とし、名簿情報は独立に管理し、アンケート郵送時のみ使用しその後破棄する。

- \* 調査事務局はあいち小児保健医療総合センターにおきます。
- \* 厚生労働省に出した情報の共有をしたい。
- \* 病院から地域機関に紹介するマップを作成したいと考えています。
- \* 質の良い療育が受けられるか、また提供できるかが課題です。
- \* 協力をお願いします。

#### <愛知県下における母体搬送応需状況の実態調査> (石川薫)

- \* 母体搬送元・母体搬送先の先生方の本音を出してもらう。
- \* 平成15年9月から調査を開始し、平成16年1月に集計をします。
- \* 愛知県産婦人科医会の先生340名に調査依頼しています。
- \* 随時報告が入るようになっていきます。
- \* 搬送依頼先に断られた理由は主にNICU満床です。
- \* 母体搬送の動きの実態が把握できるのではないかと。
- \* 母体搬送依頼の電話があった時に用紙に記載するといいいのでは。

#### (4) 平成15年度愛知県周産期医療研修事業の報告について

##### 研修会

- \* 平成15年10月25日(土)栄ガスビルにて開催しました。
- \* 平成14年度の調査・研究の3テーマの報告がされ、活発な討議が行なわれました。
- \* 参加者は約90名でした。

##### 講演会

- \* 平成15年11月15日(土)名古屋第一赤十字病院 古川講堂にて開催しました。
- \* 吉祥寺南町診療所長 医療情報研究所所長の長屋憲先生による「日本の周産期医療システムの展望」と題し講演会を開催しました。
- \* 日本の妊産婦死を減らしたいという事で、周産期医療対策事業を厚生省で最初に起草されました。
- \* 今後の展望として地域周産期母子医療センターをオープンシステムにする

必要性があります。

- \* 参加者は約 80 名でした。

#### (5) 報告事項

愛知県周産期医療協議会小委員会の報告について

- \* 第 1 回の周産期医療協議会で小委員会を設け、連絡票や運用方法を検討することになりました。
- \* 委員の方とはメールで情報を交換しています。

#### 目的

医療機関と保健機関が連携を密にして、一貫した保健医療を提供し、地域保健医療の推進を図ること。

#### 対象

- ・ 継続的に医療、療育及び看護指導を必要とする乳幼児と妊産婦。
- ・ 子供に問題はないが子育てに様々な困難を有する家族。
- ・ 家族から連絡の希望があったもの。

#### 連絡票の運用方法

##### 医療機関から保健機関への連絡

- \* 退院または入院中であっても保健機関への連絡が必要であると判断した場合に同意を確認し、退院後の居住地を管轄する保健機関の長に連絡をする。
- \* 家族の同意が得られない場合であって、かつ「児童虐待の防止等に関する法律」に係る要件を満たす場合は当該法を遵守する。
- \* 里帰り出産で退院後の居住地と異なる地域においては、家族の希望があれば当該地域を管轄する保健機関の長に連絡をする。

##### 保健機関における情報管理および訪問等の実施

- \* 保健機関は記録の管理をするとともに、一貫した地域母子保健管理のため有効な活用を図る。
- \* 訪問指導等は主治医および保健機関の長の指示に従い適切な実施に努める。

##### 保健機関から医療機関への連絡

- \* 保健機関は訪問指導等を実施した場合「返信票」に必要事項を記入し、初回訪問等終了後医療機関の長に報告し、必要な事項は適宜連絡をとるものとする。

- \* 病院から保健施設の連絡時に県の保健所か市の保健センターのどちら

に送ったらいいのか。

- \* サービス一覧表等のパンフレットを作成する予定です。
- \* 小委員会の委員の意見を取り入れ連絡票を作成しましたが、書式は現在検討中です。
- \* 小児科の医師が退院していく母と子に問題のある人についてのみ報告書を出してもらう。
- \* 母子手帳と別に用紙を出してもらうと保健所がフォローアップしやすい。
- \* 育児不安、虐待の予防・防止に役立てたい。
- \* 統計的な数字を得たい。
- \* 子供には問題はないが母親に問題がある場合、小児科を通らず退院する時は産婦人科の医師が報告書を出してくれるようにしたい。
- \* 今年度中に連絡票が承認されれば、来年度から実施を予定しています。
- \* 厚生労働省から県に調査依頼の指示がありましたので協力をお願いします。

名古屋第一赤十字病院総合周産期母子医療センター

平成14年度総括につ

いて

- \* 平成14年度総括を作成しましたのでご覧ください。

## (6) その他

<総合・地域周産期母子医療センターの現況報告について>

- \* 第1回の周産期医療協議会の時に記載方法について指摘がありました、NICU病床数について設備・看護基準を明確にしましたので、資料5-1をご参照ください。
- \* NICUの病床数は重症な管理ができる重症新生児の受入れ可能なベット(例として人工呼吸管理のできるベット)数です。
- \* 後方病床はそれ以外の新生児の受入れ可能なベット数です。
- \* 小児科病棟を含めると新生児病棟の意味合いが薄れてしまう。
- \* 医療従事者の状況の記載方法として、常勤とは勤務形態上、常勤の取扱いがされている者の人数である。
- \* 病院によって見解が様々であるので、実態が把握できないので統一してまとめる必要があります。

- \* 事務局から各施設に用紙を送りますので、改めて記載して児童家庭課まで返信をお願いします。
- \* 愛知県の母子保健の水準 都道府県・人口動態統計順位を見ると、出生率は10.3で全国3位ですが、周産期死亡率は5.4で全国平均並みです。
- \* 妊産婦死亡率は6.3で全国平均並みです。
- \* 詳細は資料 5 - 3、5 - 4をご覧ください。
- \* 20歳未満の死因 順位別死因及び死亡率、割合を見ると0歳児の死因は県・全国とも1位から4位まで同じです。
- \* 年齢を重ねるごとに不慮の事故が増えています。
- \* 妊産婦死亡を限りなくゼロにするのは限界があります。
- \* どうしても母体搬送までの医師の考える時間というのは発生してしまうので、その時間を短縮するのは難しいのではないかと。
- \* 各先生方に啓蒙活動を行っていますが限界があります。
- \* オープンに産科医療を持っていけるかが、今後の課題でもあります。

< 次回協議会開催について >

平成15年度第3回愛知県周産期医療協議会を平成16年3月19日（金）に名古屋第一赤十字病院 第6会議室にて開催します。